

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846 鳥取市扇町21番地
東教発 H30.3.1 No.148
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

新しい学校のスタート～挑戦する喜び～

八頭町立八東小学校



八頭町立八東小学校は、平成29年4月に3つの小学校（安部、八東、丹比）を統合し、新しい小学校としてスタートを切りました。子どもたちが、教職員が、挑戦する喜びをかみしめながら自分たちの学校づくりを進めています。

八東小学校の挑戦と前進

挑戦① 子どもたちの温かい人間関係づくり

- ◆特活を中心とした自治的活動の活性化
- ◆探究的・協働的な学びを生み出す授業
→授業を通じた人間関係づくり

挑戦② 保護者や地域とのつながりづくり

- ◆保護者や地域の方に子どもの姿を見てもらう
 - ・地域をフィールドとした学習の展開
 - ・保護者、地域の方の学校行事等への参加・参画



挑戦③ 2つの挑戦を可能にする協働的・創造的な教職員集団づくり

- ◆教職員一人一人の思いの出し合いと話し合い → 決まったことは全面協力
- ◆方向性を共有しながら、個性と特技を発揮

【教職員の意識改革】

- ★授業について
 - ・少人数（個別）指導からの脱却
 - ・考えたくなる（言いたくなる）課題や発問
- ★生徒指導について
 - ・優しさと厳しさで子どもを鍛える
 - ・学校組織全体による生徒指導

創意工夫による新たなスタイルの構築



【子どもの成長】

任されて、みんなで実践

- ・学校を自分たちで創っている実感
- ・集団として高まることの良さを実感

更なる挑戦へ

学校は常に挑戦しながら前進していると言えます。時には思い通りにいかないこともありますが、挑戦したからこそ、新たなステージへと進むことができます。挑戦によって新たなステージを経験した学校（子ども・教職員）は、更なる挑戦へと向かっていきます。

根になる力を育成する

局長 森本 直子



冬季オリンピック平昌大会の映像を見ながら、全力で競技に挑む選手の姿に感動するとともに、前向きさ、困難にくじけない強さ、チームワーク、感謝の心など、人の生き方として大事なことが養われているということも感じました。

これからの時代を生き抜いていく今の子どもたちに、どのような資質・能力を育成すべきなのかを改めて考えてみました。新学習指導要領において育成をめざす資質・能力の3つの柱の一つが、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」です。ここには、主体的に学習に取り組む態度、自己の感情や行動を統制する力、多様性を尊重する態度、協働性、リーダーシップやチームワーク、コミュニケーションの能力、豊かな感性や優しさ、思いやり等、幅広いものが含まれます。樹の成長に例えると、よい樹は、しっかりとした根が地中深く広く張っているものです。根が生きている限り、樹は大樹として伸びていきます。その根っこになるものの一つが、学びに向かう力や人間性等だと思います。学校教育の中でこの資質・能力を涵養し、根になる力を育成することが、他の様々な力にもつながってきます。

3月、多くの子どもたちが次のステージへと羽ばたいていきます。10年先、20年先…、子どもたちの未来の幸せな人生を思い描き、今必要な力を身につけさせたいものです。

新たな不登校を
生まない取組

未然防止のための「魅力ある学校づくり」

不登校対策には「未然防止」「早期発見・早期対応」が大切であり、課題のある児童生徒への「治療的予防」に留まらず、すべての児童生徒に対する「教育的予防」の発想で取り組む必要があります。入学、進級という成長の節目を控えた今、学校や学年の移行が円滑に進むよう細やかに配慮し、すべての児童生徒が元気に登校し、充実した生活を送ることができる「魅力ある学校づくり」を進めていきましょう。

東部地区の不登校児童生徒数（問題行動調査の基準による30日以上欠席）の推移を見ると、平成28年度当初は卒業や復帰等で116名減少していますが、**年度中に117名の児童生徒が新たに不登校になり**、年度末には前年度を1名上回りました。

この結果から、不登校児童生徒に対する手厚い支援はこれまで同様大切ですが、「新たな不登校を生まない」取組も重要であることがわかります。そこで、児童生徒が「学校は楽しい」「学校に行きたい」と感じられるような「魅力ある学校づくり」を進めることが大切になります。その**4つのポイント**とチェック項目を紹介します。

東部地区の不登校児童生徒数の推移
(H27年度及びH28年度「児童生徒の問題行動調査」より)



「魅力ある学校づくり」のポイント

① 教員の基本姿勢

- どの子に対しても公平に認め、ほめ、励ましていますか？
- 小さな問題行動であってもその行為を見逃さず、毅然とした指導を行っていますか？
- 気になる子に対して、担任だけの見方ではなく、複数で様子を観察したり対応を検討したりしていますか？



② 学ぶ意欲の向上と基礎基本の定着

- 考える視点や学習活動の手順等を明確に示し、児童生徒が見通しを持ち、主体的に学習に取り組めるようにしていますか？
- 教え合い、学び合う授業を行い、子どもどうしの「つながり」や「自己有用感」を育むよう工夫していますか？
- ノートの書き方や発表の仕方、家庭学習の仕方など、学び方を年度当初に丁寧に指導していますか？



③ 「居場所づくり」と「絆づくり」

- 年度当初の信頼関係を築くための取組や、構造的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等、子どもたちの人間関係を促進する取組を計画的に行っていますか？
- 全員が静かに考える時間やお互いの意見を伝え合い聴き合う時間を設け、子どもたちに自分と向き合い相手を思いやる力が身につくよう努めていますか？
- 役割や仕事を公平に分担したり、発表の機会を与えたりして、一人一人が活躍できるような指導ができていますか？



④ 援助ニーズに応じたきめ細やかな配慮

- 問題行動等の要因を、特別支援教育の観点も踏まえて多面的に把握しようとしていますか？
- 個々のつまずきの状況を把握し、個に応じた支援の手立てを用意するようにしていますか？
- 進級・進学前に、特性や必要な支援について情報を引き継ぎ、支援に生かしていますか？

不登校対策のための「教育的予防」は、「少々の困難なら乗り越えられるたくましい児童生徒を育てる」「子どもたちが登校したいと思える学校をつくる」といった発想で、広く、浅く、じっくりと、学校全体で取り組むものです。「魅力ある学校づくり」によって、学校は課題のある児童生徒はもちろん、すべての児童生徒にとって居心地のよい場となります。